南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

（急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告）

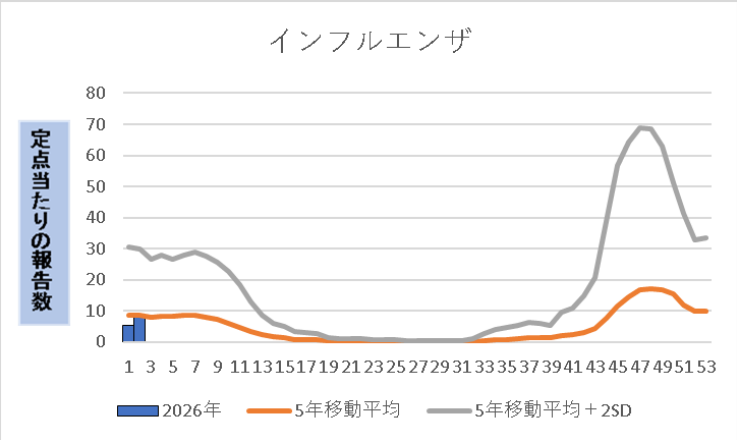
第 2 週　　2026 年 1 月 5 日　　～　　1 月 11 日

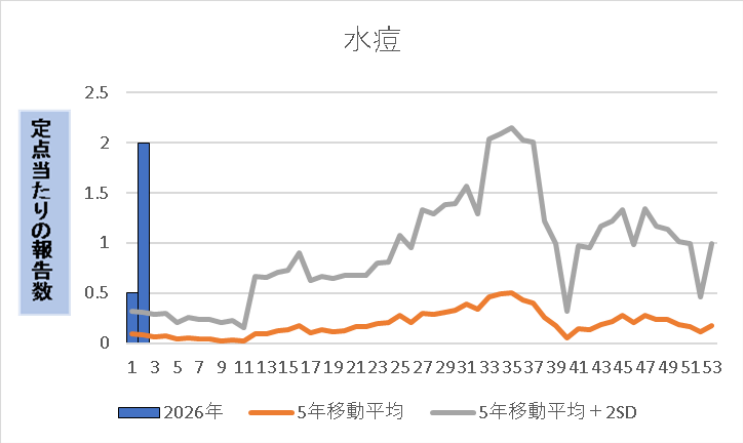
今週のコメント

南丹保健所管内では、**水痘**が**警報レベル**になりました。

2026 年第 2 週の報告です。
〇インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 8.50（前週 5.25）、京都府 10.86（前週 9.31）となっています。
〇感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 5.50（前週 0.00）、京都府 5.03（前週 1.17）となっています。
〇水痘の定点あたり報告数は、南丹 2.00（前週 0.50）、京都府 0.90（前週 0.31）となっています。
〇A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数は南丹 2.00（前週 1.50）、京都府 2.67（前週 0.50）となっています。

今週のグラフ　（下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています）





※横軸は週数　縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。
2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

水痘（すいとう）について

水痘（すいとう）とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる、かゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。空気感染、飛沫感染、接触感染することによって広がり、潜伏期間は感染から 2 週間程度と言われています。

症状は、発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。

水痘は主に小児の病気で、9 歳以下での発症が90%以上を占めるといわれています。多くは軽症ですが、成人や妊婦が初めて感染すると重症化することがあります。胎児が先天性水痘症候群を発症することもあります。治療としては重症度に合わせて抗ウイルス薬が用いられます。水痘ワクチンの 1 回の接種で重症化をほぼ防ぎ、2 回で発症自体の予防効果が高まります。未接種の場合、まれに重い合併症や死亡に至ることもあります。定期接種は生後 12 か月から 36 か月の間に 2 回受けることが推奨されています。予防のため、対象年齢の方は早めの接種をご検討ください

水痘について詳しくは、こちら（厚生労働省）をご覧ください。

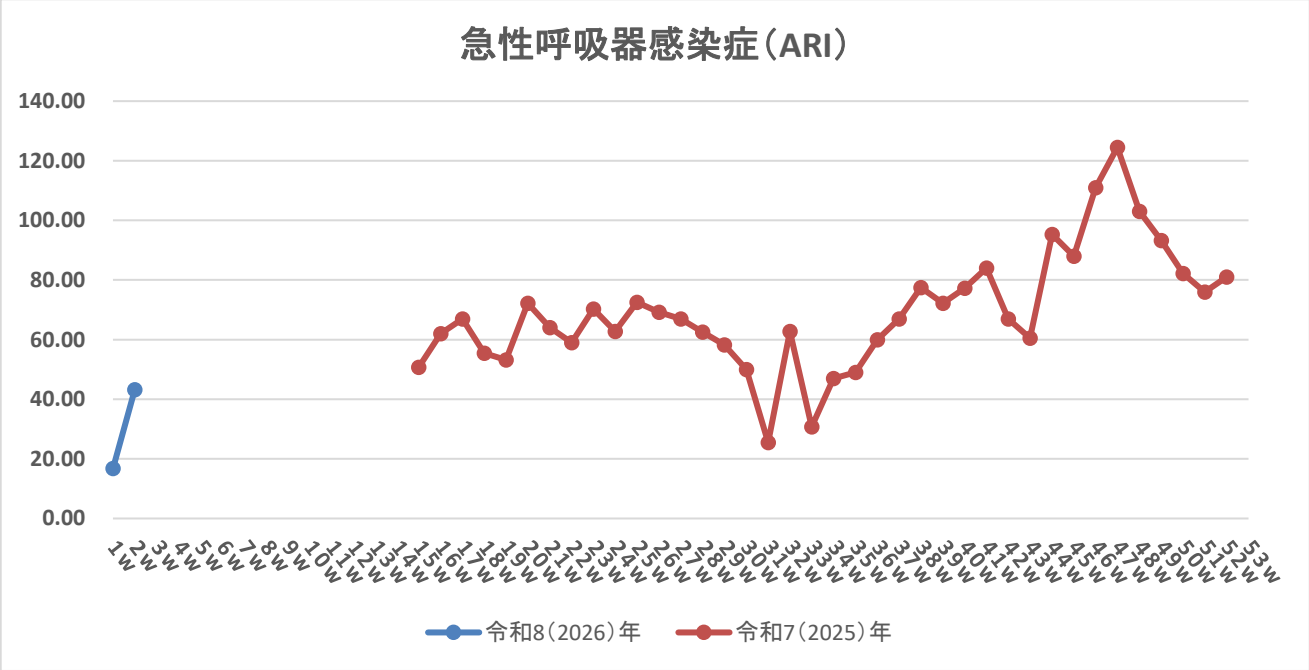
各定点把握疾患　発生状況（南丹管内）

	警報レベル		注意報	R8.2w		前週定点（参考）
	開始	終息		定点当たり報告数	前週比	
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	30	10	10（流行1）	8.50	↗	5.25
新型コロナウイルス感染症				1.00	↗	0.25
RSｳｲﾙｽ感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	↘	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		2.00	↗	1.50
感染性胃腸炎	20	12		5.50	↗	0.00
水痘	2	1	1	2.00	↗	0.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				1.00	↗	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.50	↗	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症（ARI）について

急性呼吸器感染症（ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 2 週報告数は 173 件（定点当たりの報告数 43.25）でした。 京都府の情報はこちら



最新情報は下記のリンク先でご確認ください（関連リンク）

・京都府感染症情報センター

更新時期：（原則）毎週木曜日 14 時　前週分の状況を更新

・感染症の情報（国立感染症研究所）